

72周年の憲法記念日に 思いを語る



訴える中林よし子予定候補

5月3日の憲法記念日、日本共産党は市内で訴えました。市議会の吉儀けい子市議が、夏の参院選で、憲法改悪勢力を3分の2以下に追い詰めることの意義を述べた後、橘祥朗市議団長が、郷里の下関での空襲経験を親から聞かされて育った体験が、日本共産党に入党した土台になったことを語りました。

続いて田中肇市議は、日本国憲法が存在しているから、日本は戦後誰ひとり殺し、殺されることがなかったことを強調。

尾村利成県議は、4月の一斉地方選挙での5期目の当選で、引き続き憲法を県政に生かすために奮闘する決意を述べました。

最後に、中林よし子元衆院議員は、夏の参院選挙で野党と市民の共闘候補となつて、憲法改悪をねらう安倍首相と対決するために支援を訴えました。

街頭宣伝の前後には、中林予定候補の姿を見つけて駆け寄り、握手を求めたり激励の言葉をかける市民の姿が、見られました。

生活と健康を守る会 ごみ問題で申し入れ

松江生活と健康を守る会（会長：高取謙次）は、4月19日に松江市に対してごみ袋問題で申し入れを行い、吉儀市議が同席しました。

4月1日から燃やせるごみは、値上げされた袋に入れたごみしか取らないことの周知について、松江市は、全世代の市民に正しく周知できていなかったことを認めました。会として、特に高齢者には簡単な文章で分かりやすい表示をするよう要望しました。

袋の不足に対して、旧ごみ袋や他の袋でも対応して欲しいとの申し入れには「すでに購入可能な状態になっており、他の袋での対応はしない」との回答でした。

が明らかとなりました。吉儀市議は「ごみ袋の交換で環境センターの窓口に出向いた市民は、誰もが市の窓口対応に不信感を募らせている。ごみ問題は、市民と行政の信頼関係があつてこそ効果が上がる」と発言しました。

憲法9条は世界の宝 メイクピースの集い開催

3日、県民会館において、「憲法9条は世界の宝メイクピースの集い」が開催されました。

最初に、川崎実行委員会代表が、「戦争反対の思いを行動にして行こう」と開会あいさつを行いました。

続いて、「市民の共同で安倍改憲に終止符を！」と題して一橋大学の渡辺治名

が明らかなりました。渡辺氏は、安倍改憲の焦点が戦力を放棄すると定めた9条2項にあること、9条に自衛隊を書き込むことで合憲とされる自衛隊は、戦争できる自衛隊となり、軍法会議、軍事機密保護、緊急事態条項導入で、日本の国全体が戦争に市民を動員する体制になることを指摘しました。

そして、参院選での市民と野党の共同で改憲派の3分の2を阻止すること、3000万署名を成功させることに展望があると語りました。

参加者は「改憲の動きにNOを！対話による平和を！」と訴えるアピールを満場の拍手で採択した後パレードを行い、市民や観光客に「憲法9条を守ろう！」と訴えました。

明日を見つめて 新たな挑戦の決意

5月3日72周年目の憲法記念日でした。私は、尾村県会議員、3人の松江市会議員と共に街頭演説に出かけました。イオン前での演説の際、行きかう車から手を振ってくださいる方など多くありました。演説を最後まで聞いてくださつ



中林よし子
予定候補

た男性にお礼に行ったら「マールマン津田店の近くに住んでいます。頑張ってください」と。さらにバス停にいた女性に私に近づいて「よかった、会えて。体に気をつけて」など温かい激励をうけました。午後は、県民会館で開かれた「Make Peaceの集い」に参加しました。受付にいた市民運動をしている女性の方から「中林さん母子家庭で育ったんですね」と声を掛けられました。どうして分かったのですか」と聞くと私の最

近できたリーフを見たのとこのとでした。「ますます尊敬します」とも言っていたいただきました。40年候補者活動をしていたのでそれなりに私の生い立ちなど知られているだろう、と思っていまいましたが反省しました。

この会で講演された渡辺治さんは「憲法9条の改憲に執念を燃やす安倍政権を終わらせるため、この夏の参院選挙、1人区での野党統一候補の勝利が要」と、力をこめられました。心の引き締まる憲法記念日でした。

参議院選挙まで2カ月余、新緑の各地に日焼け止め塗って全力で駆け巡ります。



リサイクル都市推進課に申し入れ・懇談



メイクピースのパレード